



銅根地区秋季バドミントン大会ダブルスで3位になった6年生の菅原梨奈さん！



日常のようす (上3枚・下2枚)



11/16 中3生入試対策の作図特講の様子



11/29 中3生入試対策の等式変形・角度特講



11/23 中3生の学力コンクール



11月も差し入れありがとうございました。

11/25 27期生で早川翔馬君、将来の目標に向けて今はコールマインで頑張っています。

11/25 21期生で東急スティーのフロントチーフとして勤務するの木村侑里さんが顔を見せました。

11/1 8期生で小樽市の支援施設で施設長の言語聴覚士として仕事をしている石山裕峰君が1年ぶりに！

★高校入試まで90日！★ Kyouno

今日から12月です。人生に一度しかない高校入試まで90日あまりです。学校では三者面談が始まり志望校を決めるような話がされます。が自分の第一志望校に向かってまだ90日も勉強できるのです。

最終的な決定は倍率発表後の2月に決めればいいのです。高校入試は人生ではそれほど重要なことではありませんし、ゴールでもありませんが、それに向かう姿勢と経験はとて大切で

大変な格差社会で生きていく皆さんは、高校入試で安易な選択で妥協し、楽な道を選ぶせずに、自分の目標や夢に向かって頑張る事が大事なんです。将来、あの時ががんばって良かったと思う日が必ず来ます。それが今！（塾の卒業生はみんななそう言ってます）一度しかない人生です。悔いを残さないように今を大事にしましょう。

季節がらインフルエンザの流行の兆しがあります。また、マイコプラズマ肺炎の患者数も増えているようです。塾でも体調を崩す生徒が多いように思います。特に受験生はインフルエンザの予防接種を受け健康管理に気をつけましょう。マスクの着用や手洗いもですね。

そして菌やウイルスの飛散、においの拡散を防ぐためと便座の熱が逃げないようにトイレの蓋は必ず閉じるように心掛けて下さい！

定期テストも残りわずかになりました！

●思考力を問う問題の増加

学習指導要領が変わり、定期テストでは思考力を問う問題が増え、全体の難易度が上がりました。自由記述問題も年々増加傾向にあり、高得点を狙うための指導が難しくなっています。例えば、新指導要領で追加された学習項目のひとつである理科のダニエル電池は、当初

●基礎基本問題の出題は変わらず

全体的に定期テストに出題される一部の問題の難易度が高くなってきている一方で、基礎・基本を問う問題は変わらず多く出題されています。国語の漢字・文法問題、数学の計算・図形・関数問題、英語の文法問題、理科の語句問題などは大きな割合を占めています。高難度の問題が入ることにより、満点を取るのに点が取れる問題を落とさないことが肝要です。

●出題数の増加

理科や社会で顕著ですが、1回の定期テストで出題される問題数は増加傾向にあります。50分のテストで60問が出題される定期テストなども見られます。選択肢の問題は定期テストでは少なく、語句記述問題が半数を占め、文章記述問題が複数出題される試験も少なくありません。また多種多様な問題が出題されているため、これらに対応するためには短時間で大量の問題を処理する力が必要になります。

●中学1年生の英語テストの難化と文法力の低下

中学1年生の英語の定期テストの難化は塾の現場に大きな影響を与えました。小学英語と中学英語との連結がうまくいっていないことが露呈した結果だと思えます。特に中1の1学期では、小学校の内容を総復習するため、定期テストの範囲に重要事項が盛りだくさんになり、結果的に問題数は増加し、難化しました。また、それに伴い文法を体系的に習得する時間が足りなくなり、文法力が定着していないことが大きな問題となりました。

●資料を用いた問題の増加

思考力を問う問題で、どの教科でも出題が増えているのが「資料」を用いた問題です。国語や英語では文だけを読み取るのではなく、資料と文を統合的に理解できているかを問うような問題が増えました。また、入試問題での素材文の長文化の影響が定期テストにも出ており、国語や英語では初見の長い読解問題が出題されるようになりました。社会や理科でも資料をひとつ読み取ればよい問題ではなく、複数の資料を読み取ってわかることを答える傾向が強まっています。今後もこの傾向は続いていくと思われまます。

育伸社
在籍する生徒の所属校
小学校 愛国・芦野・富原
中学校 美原・青陵・景雲・北・武修・富原・遠矢・別保・鶴居
高校 湖陵・江南

小学生も中学生も取り組んでいる「頭の準備運動」という制限時間3分の問題を帰りの一枚として授業の最後にやっています。

Part 2

1. 積み木は、全部でいくつ？

2. □の中に、+、-、×、÷を入れて、式を完成させよう。

3. □の中に数字を入れて、数当てを完成させよう。

公立高校入試まで 93
高専入試まで 70

12月の予定

過保護・過干渉は子供をダメに！
大きな声であいさつを！

子どもが自ら考え、振り返り、切り替えられる
環境づくりが指導者には求められている



1968年愛知県出身。1980年、故・板谷進九段に入門、1990年プロデビュー、現八段。板谷九段の遺志を継ぐべく、引歳で弟子を取り、当時、最年少の師匠となる。地元・名古屋市で主宰する将棋研究室（現在は休止中）では、主に小学校高学年から高校生を指導。プロ棋士の育成に尽力。現役プロ棋士であると同時に執筆活動、テレビ出演、講演等もこなす。将棋の戦術書はもちろん、師匠としての日常を綴ったエッセイも人気を博し、『弟子・藤井聡太の学び方三（PHP 研究所）で第0回将棋ペンクラブ大賞（文芸部門）の大賞受賞。2021年6月、日本将棋連盟の非常勤理事就任。2022年、公式戦通算600勝（将棋栄誉賞）達成。2024年1月、新設された名古屋市文化芸術特別表彰「金シャチ賞」の表彰第一号。

将棋を学ぶことによって身に付くこととは

将棋の世界では、「指導者のアドバイスをすべて受け入れる生徒は、その指導者を超越することはできない」とされています。指導者が良かれと思って一から百まで教えてしまうと、その生徒は師匠の段位を超えられず、個性もつぶれてしまう可能性があるからです。

しかしながら、最近はずっと答えを知りたいがる生徒が多くなりました。答えを教えることは容易ですが、私は、生徒に考える余地を与えたい。たとえば具体的には、公式戦で私が指した将棋を見せて、「君ならこの局面でどう指すかな？」と聞きます。将棋を学ぶ子どもに割と優秀な子どもが多いのは、自分で考える習慣が身に付くからです。さらに将棋によって勝負勘が養われ、それが受験に役立つこともあるようです。

上から教え込むのではなく、コミュニケーションの一環として「一緒に考えよう」と相談する形にもっていくと、生徒の言葉を引き出すことができます。

AIも活用した振り返りでさらなる向上をめざす

将棋は対局後に「感想戦」という振り返りを行います。あらゆる競技の中で、対戦相手とこれを行うのは将棋だけかもしれません。感想戦で自分を客観視することでミスに気づき、相手の考えも知ることができます。

最近帰宅後にAIを使って感想戦を行う若い人が増えています。将棋の世界では早くからAIが導入され、若い弟子たちはAIを使って研究しています。

私が最初に奨励会（日本将棋連盟のプロ棋士養成機関）の弟子を取ったのは、30代前半のころでした。年を重ねた今、私は50代半ばです。弟子たちの平均年齢は常に中学生くらい。「師匠」と「弟子」の年齢差は、年々広がっています。そうなるに指導者の考え方は、基本的に「古い」と思ったほうがよい。

教える側は、それを前提とした指導をする必要があります。私自身もAIを駆使して対局研究を行います。彼らはAIネイティブ世代なので、私たちよりはるかに詳しく、参考になることも多々あります。

時代に合った新しい考えを取り入れながら、指導にあたっていきたいと思っています。

藤井聡太七冠から学ぶ「切り替えること」の重要性

対局に負けると、子どもはひどく落ち込むことがあります。「負けることは珍しいことではない」とわかると、立ち直れるようです。私も弟子に対して「負けることは当たり前のことで、将棋の日常だ」と声をかけています。

藤井聡太七冠は負けると人一倍落ち込むタイプで、負けたとき、将棋盤を抱えるようにして泣いていたという有名なエピソードがあるほどです。しかし彼は、切り替えも早く、すぐに立ち直ります。尋常ではないくらい落ち込む十数分間が、彼なりの切り替えの儀式なのだと思います。

藤井聡太七冠は失敗を放置せず、必ず自分の中で、なぜミスをしたのか、それを改善するにはどうしたらよいかを考え、結論付けます。ですから、公式戦の連敗が極端に少ないのです。

勝負の世界では、失敗をいつまでも引きずって良いことは何事ありません。いかにベストコンディションで次戦に臨むかが大事ですから、うまく気持ちを切り替えて精神的な不安を取り除くことが大切なのです。

個性に合った学びの環境を選ぼう

子どもを塾に通わせる大きなメリットは、「勉強ができる環境に身を置けること」。そのことに本人が気付けば、自主的に塾へ行きたいと言い出すでしょうが、それまでは本人が納得できるよう塾に通う意味を説明する必要があります。

将棋で例えると、独学の子とプロ棋士から習っている子どもでは、前者は独りよがりになりやすく、想定外の出来事に上手く対処できません。一方、後者は要領がよく、想定外の出来事にも対処できます。学びにおいては、プロの意見を聞くことは大事ですし、共同で研究することも必要。同じ志を持った人がいる空間では、効率よく学ぶことができます。先程お話しした奨励会がそれで、非常に厳しいところですが、将棋が強くなる環境としては、日本一優れた場所なのです。

藤井聡太七冠は、与えられた環境で自分のやれることをやって強くなりました。人それぞれ個性に合った学び方や環境がありますから、子どもに合った塾を選ぶ必要があると思います。

本当の成長は「勝つこと」のみにあらず

将棋では、「目先の勝ちを捨てる勝ち方をしてはいけない」と指導します。その時だけ勝つ選択は、違う場面では通用しません。目先の結果にこだわってもいけません。勝負の世界は、勝てば成功、負ければ失敗と見られがちですが、負けた本人にしかわからない成功があります。将棋内容を本人に聞き、「負けても自分の中では全力を尽くした、良い勝負でした」と言うのであれば、それは一つの成長であり、評価すべきことです。

塾での勉強も、同じことが言えるのではないのでしょうか。

ウィズティ 2024 Autumn 好学出版

中学生、高校生の皆さんにぜひ読んでほしい本です！

君たちは 漫画『君たちはどう生きるか』は、多くの読者に人生や人間関係、社会の中での自分の在り方について深く考えさせられる作品です。

主人公のコペル君が困惑や挫折を経験しながらも成長していく姿は、誰もが通る過程を象徴しています。特に思春期の読者にとって、彼の悩みや行動は身近に感じられるでしょう。

自分友人関係や、間違いを認める勇気を持つ姿勢に共感し、「自分も正直に生きたい」と思う読者が多いのです。図書室、図書館にあると思います。塾にもありますのでぜひ読んでみてください！

